

令和6年度予算編成方針

コロナ禍を契機に大きく変化した暮らしや社会の価値観はさらに多様な姿へと変革を続けている。流動的で多様な社会課題に柔軟に対応し、「幸せデザイン 大東」に示す一人ひとりの幸せを実現するためには、これまでの歩みを留めることなく着実に進める力強さと、多角的に物事を捉えて新たな発想で新たな価値を生み出していくしなやかさを兼ね備えたまちづくりが極めて重要である。このような強くしなやかなまちづくりには、民間ファイナンスを含めたあらゆる財源の確保に努めるとともに、本市の創意工夫により生み出された財源・基金を有効に活用し、持続可能な財政運営を着実に推し進めなければならない。

国が打ち出した少子化対策・こども対策の抜本強化に伴い、こども・子育て予算の拡充が予測される中、「大東市中期財政収支見通し」（令和5年7月作成）においては、歳入を支える柱の一つであるふるさと納税寄付金の不確実性によるリスクや、事業規模の大きな公共施設の老朽化対策の実施、物価高騰による物件費等の増加も見込まれる。また、令和12年度には財政調整基金が枯渇し、実質収支が赤字になるといった大変厳しい財政運営を見込むため、現時点から危機感を共有し、早期に対策を講じていく必要がある。

以上を踏まえ、今年度も引き続き次の観点に重点をおいた予算編成を行う。

一、財源確保に向けた積極的な取組の推進

交付税措置の有利な起債等の活用、国及び府交付金の積極的活用や、公有財産の活用等による自主財源の確保を積極的に行うこと。また、公民連携、DX、業務改革などにより、事業の手法を見直すこと。これらにより生み出された人や財源を有効に活用し、これまで以上に市民サービスの維持・向上を図ること。

一、多角的で中長期的な視点による政策の推進

変革する社会に柔軟に対応するため、中長期的な視点のもと本市が抱える課題解決に向けた政策目的を設定すること。その際には、各部署が自立的・主体的な組織としての自覚を持ち、前例や感覚に拠らず、客観的かつ合理的根拠に基づいた政策立案を行うこと。加えて、政策間・部署間連携によって相乗効果を生み出す取組を積極的に検討すること。

一、“幸せデザイン 大東”の着実な実行と「公民連携」「DX」の推進

“幸せデザイン 大東”のうち、総合戦略の未着手の事項や進捗が遅れている事項の着実な実行に取り組むこと。“幸せデザイン 大東”の実行にあたっては、すべての事業及び経費について公民連携の可能性及びDXの更なる活用を検討すること。

以上の方針のもと、令和6年度当初予算は、下記のとおり編成するものとする。

記

1. 総括的事項

- 各部等は上記3つの観点を踏まえ、予算要求を行うこと(別紙参照)
- ふるさと振興基金の積極的な活用を検討すること

2. 採択、査定方法

- 令和6年度の予算編成は、「枠配分方式」とする
- 「1. 総括的事項」に基づき、採択、査定を実施する

3. 予算インセンティブ

- 「公民連携」の優先検討や事業構築を行ったもの、「DXの推進」を図るもの、歳出歳入の改革に寄与するものと認める事業及び経費については、採択・査定に係るインセンティブを付与する

以上

令和5年9月26日

大東市長 東坂 浩一